



市民部長と榊橋本の嶋本係長(右)



市長に銀イオン消毒液の説明をする北森さん(右)

新型コロナウイルスの危機を乗り越えて！

3月16日、株式会社橋本から「市役所の機能を維持し、市民の安全安心に役立ててほしい」と、マスク2,000枚の寄附をいただきました。

3月31日には、一般社団法人ブレイクスルーバンクから銀イオン消毒液74ℓとオゾン脱臭機1台の寄附があり、同法人の北森代表理事から「予断を許さない状況で大変だろうが、一丸となって乗り越えてほしい」と激励をいただきました。

市はこれらを生かして、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて全力で取り組んでいきます。

災害時にドローン活用

3月19日、小型無人機ドローンを災害時などに活用するための支援協定を、NPO法人 可茂スカイサイト(坂祝町)と結びました。市内や近隣市町に住む13人が所属する団体で、今後は市の防災訓練等に参加し、デモ操縦をする予定です。

締結式で市長は「災害は年々大きくなっている。協定を縁にいろいろなかたちで連携し、強化発展していきたい」と感謝を述べ、市川理事は「地元とコミュニケーションをとりながら、非常時に後方支援などのお役に立てれば」と話しました。



市長と市川さん(右)



(左から)市長、渡邊さん、高井さん

明智荘に名を刻む

3月26日、明智荘を訪れる観光客におもてなしの活動をする「明智荘をみつめる会」から明智光秀公ブロンズ像建立のための寄附をいただきました。同会の渡邊会長は「御城印、御荘印などグッズの売上げが建立の一助になれば。会の名も土台に刻まれるので嬉しい」と語ってくれました。

また、同会は3月5日に横断幕を名鉄明智駅に設置するなど、明智荘のPRもしていただいています。



あかりい生放送スタート♪

可児市ふるさと広報大使の塚本明里さんがパーソナリティを務めるラジオ番組「あかりい話」が3月26日、FMらら可児スタジオから放送を開始しました。3つの難病を抱える塚本さんは、これまでの自宅収録をスタジオ出演ができるまでの体調になったことで、生放送への切り替えを決心。「スタジオの様子はケーブルテレビ可児でも放映されるので、これまで以上にみんながあかりいく(明るく)なれる番組にしたいです！」と意気込みを語りました。

番組の放送などは19ページをご覧ください。



放送の様子(左が塚本さん)

にぎやかな演技で、豊作を願う

3月11日、ユーモアのある動きで農作業を再現し、五穀豊穡を願う「お鋤祭り」が、土田の白鬚神社で行われました。毎年同日に開催され、鋤の模型を奉納する珍しい伝統が受け継がれています。

祭りは、百姓役と禰宜役の氏子が鋤おろしから田かき、鳥追いなど農事の一連を演じるもので、手作りのかぶり物を身に着けた馬役が境内を走り回って田かきを演じたり、田をすりならす作業の代すりではエビガニ(ザリガニ)を見つけたりと、見物客の笑いを誘いました。

また、さら太鼓の演目では、氏子とともに訪れた人も「エイコナガナガ デンデンコ」と掛け声を唱え、実り豊かであるように願いました。

氏子として初めて百姓役を演じた可児良夫さんは「初めは恥ずかしさがあったが、無事演じ切れてほっとしている。来年演じる氏子には、さらに上手にやってもらいたい」と話しました。



エビガニを発見する百姓役の氏子



本物の馬さながらの動きで田かきをし、境内を3周する

動画もCheck /



見物客に配布された御朱印と鋤の模型



鳥に見立てた笹を持ち、「ホーイ」と唱えながら鳥を追う



「エイコナガナガ デンデンコ〜」という掛け声でさら太鼓を叩く

きみは 解けるかな!?

3月12日、「K検定 光秀編」をホームページで公開しました。K検定は、平成29年から「初級編・中級編・上級編」として可児市の魅力が問題になったご当地クイズです。

今回の「光秀編」は大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公 明智光秀と可児市に関する全30問で、令和3年1月11日まで公開しています。24問以上正解して合格認定証とオリジナル缶バッジをゲットしよう!

挑戦してみよう ▶



K検定 光秀編のトップページ この中にも問題のヒントが!